

農作物技術情報 第1号 野菜

発行日 令和5年 3月23日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ 排水対策をしっかりと講じるとともに、計画的に圃場の準備を進めましょう。
- ◆ 計画的な播種・育苗で、適期作業に努めましょう。
- ◆ 育苗中の苗は温度管理を徹底し、低温および高温障害の発生や徒長を防ぎましょう。
- ◆ 定植前後の地温確保、保温管理により活着の促進を図りましょう。

1 圃場準備

圃場周りに排水溝を作るなど排水対策を実施し、土壌が早く乾くようにします。また、土壌病害対策で土壌消毒や pH 改良などを行う場合は、早目に圃場の準備を行い、計画的に作業を進めます。

(1) ハウス

- ・苗の定植に向け、定植2週間前にはマルチを張り、地温を上昇させます。
- ・雨水がハウス内に流入しないよう、ハウス脇の排水用水路の点検や整備を行います。

(2) 露地

- ・マルチを利用する品目では、適湿時にマルチを張って地温を高め、出芽や活着を促進させます。
- ・水田転換畑では、額縁明きょを設置し、排水路に確実に接続出来ているか確認し、表面水の速やかな排出が出来るように圃場の準備を行います。また暗きょからの排水状況を確認します。

2 果菜類の育苗・定植

(1) 共通

- ・育苗中は、高温と葉の重なり合いにより苗が軟弱徒長となるので、適宜苗のずらしを行って受光体制を改善し、徒長を防ぎます。
- ・果菜類の苗は、定植時には既に花芽分化が進んでいます（表1）。このため、定植時の低温や活着の遅れは花芽の成長やその後の果実品質にも影響するので、適温・適期での定植に努めます。

表1 主要果菜品目の生育ステージと花芽分化

品目	生育ステージ	花芽分化
きゅうり	本葉3枚時	15節まで分化
トマト	本葉8枚時	3段花房まで分化
ピーマン	本葉13枚時	第5次まで分化

また、病害虫が発生した苗を定植すると、圃場に持ち込まれ早期から被害が発生し防除困難になる場合があります。育苗中の温度・湿度の適正管理や雑草防除を行い、発生状況に応じて薬剤散布を実施します。

(2) 露地果菜類

露地きゅうり、簡易雨よけトマト、露地ピーマン等の育苗では、播種床や移植床の地温確保をしっかりと行い、生育ステージに応じた温度管理に努めます。日中に蓄熱したハウス内の保温効率を高めるため、多重被覆を行うとともに育苗床では保温性の優れる農業用ビニールに加え、断熱シート、反射シート等をかけ保温に努めます。

(3) ハウスきゅうり

- ・3月下旬～4月上旬の定植では、保温または補助暖房が必要です。地温の上昇が期待できるマル

チの利用、内張りカーテンやトンネル被覆を実施するなど、地温確保と保温に努めます。

- ・本葉 3～3.5 枚のやや若苗を定植します。定植 5～6 日前から夜温を 15℃程度とし、順次苗のずらしを行うとともにかん水を控えて徒長を防ぎます。
- ・定植後は、根をしっかりと張らせるために主茎長 30cm（または 5 節）までの雌花と側枝を除去します。草勢が弱い時は 10 節位までの雌花も除去して草勢を回復させ、しっかりと根を張らせます。活着後は湿度をやや高めに管理し、側枝の発生を促します。

(4) 雨よけトマト

- ・育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生するので、夜温は 10℃以下にならないよう保温が必要です。補助的に、育苗期のカルシウム剤の葉面散布も発生軽減に有効です。
- ・苗が生長するにしたがい、順次鉢のずらしを行って徒長苗の防止、葉かび病等の発病防止に努めます。
- ・定植は、1 段花房が 1～2 花咲いた頃の苗をやや浅植えしますが、草勢が弱い品種はやや早植えとします。活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温 15℃以上を確保します。

(5) ハウスピーマン

- ・定植 20 日前頃から徐々に育苗ハウス内の夜温を下げ、順化します。定植 5 日前には 16℃程度まで下げ、かん水も控えめにします。肥料切れの兆候が見られる場合は、液肥を施用します。
- ・定植後は、地温 18℃を確保できるようにトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備が必要です。また、定植苗が乾かないよう温水を株元に手かん水し、活着を確認した後はかん水チューブによるかん水に切り替えます。

3 葉茎菜類の播種・育苗・定植

(1) 共通

- ・育苗期の温度管理を適切に行い、苗を徒長させないように管理します。日中の高温、育苗培土の過乾燥に注意し、葉色が薄い場合は、かん水を兼ねて液肥を希釈して施用します。
- ・育苗後半は外気に当て、外の環境に慣らす順化を行います。

(2) キャベツ・レタス

- ・定植適期の目安は、キャベツで本葉 2.5～3.5 枚、レタスで 2.5～3 枚程度です。
- ・キャベツ、レタスとも低温には比較的強いですが、定植後、根が活着する前に強い低温にあたるとう枯死する場合がありますので、べたがけ資材（表 2）を使い、低温、降霜、強風の被害を防ぎます。

表 2 主なべたがけ資材とその特性（「施設園芸・植物工場ハンドブック」等より引用）

種類	素材	商品名の例	耐候性	強度	資材面の結露	透光率	耐用年数
長繊維不織布	ポリプロピレン	パオパオ 90	△	△	有	90%	1～2年
	ポリエステル	パスライト	○	△	有	90%	1～2年
割繊維不織布	ポリエチレン	日石ワリフ	△	○	少	90%	2～3年
	ポリビニルアルコール	ベタロン	◎	◎	極少	93%	5～7年

(3) ねぎ

- ・育苗日数は、セル成型育苗やチェーンポット育苗で 50～60 日間が目安です。
- ・収穫調整の労力を勘案し、計画的に播種・定植を行います。

- ・定植圃場の植え溝は、管理機等により深さ 15～20cm 程度で作溝します。土壌水分が多い時の作溝や定植は、根の活着不良や欠株の原因になるので、圃場の排水対策を実施し、地表面が乾いて白くなるなど、適湿時を選んで作業します。

(4) 雨よけほうれんそう

- ・今年融雪が早く進んでおり、ハウス内に積もった雪の融雪水だけでは、水分不足や生育ムラが生じる可能性があるため、1作目でもかん水は十分に行ってください。
- ・低温時は、播種直後にべたがけ資材を被覆することにより、出芽揃いが良くなります。しかし、長期間の被覆は徒長の原因になるので、出芽揃い後に除去します。
- ・春季はハウレンソウケナガコナダニが発生しやすく、前年に多発したハウスでは播種～本葉2葉期までの土壌処理剤と、その後の茎葉処理剤との併用による防除を行います。その場合、茎葉処理剤は使用基準内で十分な散布を行ってください。また、未熟な有機物（モミガラ、わらなど）は被害を助長するので施用しないでください。被害株は圃場外に持ち出して処分します。なお、有機質を含まない化学肥料を施肥することで被害を軽減できるので、例年被害の見られる圃場では、肥料の変更を検討してください。

4 肥料コスト低減に向けて

肥料・燃油価格の高騰が進む昨今ですが、必要な資材までも安易に使用を控えると収量や品質に悪影響を与えてしまいます。このため、肥料については、土壌診断に基づく適正施肥、たい肥等有機物の活用、施肥量低減技術の導入、肥料銘柄の見直しや調達方式の改善等によりコスト低減に努めます。

岩手県では、肥料コスト低減に向けて下記のマニュアルを発行し、岩手県ホームページに掲載しています。是非一度、お手持ちのパソコンやスマートフォンから確認してください。

岩手県肥料コスト低減対策マニュアル（令和4年1月）

https://www.pref.iwate.jp/res/projects/default_project/page/001/049/686/hiryoukoutoumanyuaru0406.pdf

<p>次号は4月20日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。</p> <p>農業普及技術課農業革新支援担当は、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。</p>
